

Mother つうしん

2019年03月発行

No.37号

MOTHERとは、Movement Organ Transplant Hyogo Emergency Rescueの頭文字をとったもので、『移植医療の理解促進と、臓器提供を待つ患者の願いを実現するため』に運動をすすめています。

臓器移植実施20年、足踏みの現状を

臓器提供の原点を見直す

本年2月、わが国で初の脳死下での臓器提供実施後20年を迎え、2月24日(日)のサンケイ新聞には、『進まぬ「命のリレー」に嘆き』『もっとドナーに賞賛を!』の大見出しで、20年前に「命のリレー」に携われたお2人医師の取材記事が掲載されていました。

平成11年(1999年)2月28日、臓器提供(以下提供)があった高知赤十字病院の西山謹吾副院長とわが国で初の脳死下の心臓移植の執刀医をされた大阪大学医学部附属病院の松田暉先生(大阪大学名誉教授、当協議会幹事)に取材された記事でした。

その記事には、西山先生はわが国の移植医療の現状について「もっと進むかと思っていたが…」と述べられ、松田先生は『20年経ってまだこんな状況かと。予想からしてとても低いレベル。海外と比べ日本の臓器移植は“ガラパゴス化”している。どうしたら本当に提供が増えるのかを真剣に考えなくてはいけない』と述べられています。

西山先生が後日、ドナーのご家族を訪ねられた折、ドナーのご主人は『臓器を必要としている人がいる。あげてもいいと、うちのかみさんが言っていた。それだけです』と、とてもシンプルなものでした。更に、『提供された方は立派で、なぜ、社会はもっと(ドナーを)賞賛しないのでしょうか。それができないのなら、提供は増えていかない』と強調された、とのことでした。

この記事を読んで、ドナーのご家族のお思いに共感するものがありました。分かり切ったことですが、移植医療は臓器を提供される方があって初めて成り立つ医療です。カトリックのローマ法王は『提供は愛の行為』と言われ、当協議会が行った第1回の臓器移植を考える市民公開講座『宗教家が示す「私の意思表示」』でお招きした講師の松本信愛神父は、提供は人間愛に満ちた行為、と話されたことを思い起します。欧米では、亡くなられた後に提供される臓器を『GIFT OF LIFE(いのちの贈りもの)』と呼んでいます。この行為は、名前を明らかにすることもなく、お金や物など全く見返りを求めない行いとして、アメリカでは、提供者をヒーローと呼び、ヨーロッパでは最高の奉仕者とも呼び、ドナー同様その家族も尊い決断をされた方たちとして讃えています。

わが国では、臓器の提供はドナーの自発的行為に過ぎず、提供する人とならない人を区別するのはおかしいと考える人は少なくありません。提供が伸び悩む現状を打破するには、ドナーの社会的評価を抜きにして、今後の移植医療の発展が望めないと考えます。今が見直す良い機会ではないでしょうか。

県の臓器移植コーディネーターの増員(1名→2名)決まる!

当協議会では、一昨年、臓器提供を増やすには提供施設の負担軽減が課題として、院内コーディネーターの拡充などを求める『要望書』を兵庫県知事と神戸市長宛に提出していました。その後、要望事項を県移植コーディネーター1名(提供施設の患者家族への説明や医療機関との調整役)増員に切り替え、その実現に向け、松田先生と共に県と神戸市に働きかけてきました。

その結果、2月末、兵庫県は2019年度から、県臓器移植コーディネーターを1名から2名体制に拡充すると発表しました。但し、今後、県移植コーディネーターの新たな候補者が決まり、所定の研修(公社)日本臓器移植ネットワークが行う都道府県移植コーディネーター必須の研修)を受講し、同社団から正式な委嘱状が出て(早ければ、本年7月)に正式に決まります。この件については、2月28日の神戸新聞に大きく掲載されました。(文責:川瀬)

活動報告

2018.10.07(日)、第29回こうべ福祉・健康フェア 場所：しあわせの村

主催：神戸市・こうべ市民福祉振興協会・神戸市社会福祉協議会、共催：兵庫腎移植の会。

こうべ福祉・健康フェアが福祉と健康に対する関心と理解を深めようと市内の医療関係団体、福祉団体など約100を超える団体、関係者が集まりました。



当日は晴天に恵まれ、10月なのに夏のように汗ばむ日差しの中、当ブース(No.13)では、子供向けの「輪投げ」の提供と、「意思表示カード」の配布を行いました。今年も「輪投げ」が子供達には好評で、お子さんと一緒に多くのご家族にお立ち寄り頂き、お子さんが輪投げをされている間、ご両親に意思表示カードについてお話しさせて頂きました。兵庫県からは、前年に引き続き、はばタンにも登場してブースの前には人だかりができていました。

今回の運営にあたっては、兵庫県移植 Co、県職員の方々、兵庫腎移植の会の方々にお手伝い頂き、用意した意思表示カードセット500枚は午前中で配り終える勢いで配布して頂きました。

【出前授業】

2018.10.24(水)、神戸学院大学 授業「医療ソーシャルワーク論」2回生 約30名

2018.11.23(金)、園田学園女子大学 授業「成人保健」第9回「臓器移植の現状」3回生 60名、

10月24日(水) 神戸学院大学の出前授業から、初めて、兵庫県移植コーディネーターの今村友紀さんと、高見とで出前授業を実施しました。

今村さんは、「移植医療の現状」としてお仕事の経験を踏まえて、移植でしか助からない待機患者さんの思いと、臓器を提供されたドナーご家族の思いを紹介され、最後に、臓器提供(する・しない)の意思表示をすること、ご家族で話すことの大切さを話されました。

一方、高見は、「当事者体験」として、移植が必要になった経緯、透析生活の実際、移植できたことで生活の質が劇的によくなり、ドナーやそのご家族には感謝しきれない気持ちでいっぱいであることを話しました。学生さんたちはメモをしながら、みな熱心に耳を傾けられていました。神戸学院大学の「社会リハビリテーション学科」のホームページには、10月24日(水)の出前授業の様子が、掲載されました(移植医療の実際を学びました！-医療ソーシャルワーカー論-) また、園田学園女子大の学生からは「(臓器提供が)もっと日本で広まってほしいので、将来養護教諭になった時、臓器提供についての講義を生徒の前でしたいなと思いました」という感想がありました。



2018.11.14(日)、第9回チャリティゴルフ大会 場所：垂水ゴルフ倶楽部、参加者 31名

(写真右は懇親会で挨拶される後藤武先生)

暑くもなく寒くもない絶好のゴルフ日和の中、31名の方に参加して頂き、8チームに分かれてプレーされました。コンペ終了後の懇親会では、神戸市議の川原田先生(当協議会正会員)の司会のもと、後藤先生の挨拶に始まり、表彰式を実施し、夕刻、盛会のうちに終わることができました。



2018.11.11(日)、市民公開講座

「移植法施行 20 年、現在とこれから」

講師：西 慎一先生 総合司会：松田 暉先生

会場：神戸市勤労会館 3F

昨年 11 月 11 日(日)神戸市勤労会館において市民公開講座を開催しました。「移植法施行 20 年、現在とこれから」というテーマで、総合司会 松田 暉先生のもと、第一部では、神戸大学医学研究科 腎臓・免疫内科学分野教授 西 慎一先生にご登場頂きました。講師は、冒頭、臓器移植と臓器提供について、一市民の目で感じ・考えておられることを話したい、と述べられ、欧米の臓器移植とわが国のそれとは随分違う事例を幾つか紹介されました。例えば、英国では臓器を提供しようという宣伝が街のあちこちで見受けられ、タクシーまで宣伝に利用されていることなど。移植医療の宣伝では、雑誌にリアルに臓器を提供した子供の写真まで掲載されているなど。更に、何歳なら臓器提供の理解ができるか？欧米では、10 歳以上ならばできるのではないかと問いについて、娘(小学校教諭)に話したところ、娘は、日本の小学校ならば「そんなことすれば洗脳だ！問題外！」と言われた。わが国では、元々、臓器移植や脳死提供について、ネガティブな風潮が社会にあり、マスコミにも移植に関する誤解と好ましくない報道が目につくことも指摘されました。

次に、脳死と心停止について、二つの死の定義があることは論理的におかしいと話され、わが国には、脳死に対して未だに受け入れていない人が多い。受け入れていない医師も少なくないと話されました。また、わが国には、様々な臓器移植の意識調査があるが、国民の約半数強の国民は移植に関心を持っていることは分かりますが、移植に関する関心は年々高くなっているとは必ずしも言えない。意思表示カードを持っていて、意思表示の記載までしている人の割合は更に少なくなる。

講演では、医学的な型苦しい話だけではなく、臓器提供に関わる人の心はどうかなど、日本の文化の問題にも触れられました。

第二部総合討論では、引き続き松田先生の司会で、ドナーのご家族、講師の西先生、兵庫県臓器移植コーディネーターの今村さん、神戸大学院内コーディネーターの吉川先生にご登場頂きました。

閉会後も、しばらくの間、参加者の方々が、西先生や、今村コーディネーターの元を訪ねて質問されたりして、盛況のうちに終わることができました。

2019.2.15(金)～18(月) Gift Of Life 移植を受けた子供達の作品展を開催

場所：須磨パティオ 1F センターコート

「Gift Of Life 移植を受けた子供たちの作品展」を 2 月 15 日(金)～ 2 月 18 日(月)、須磨パティオ 1F センターコートで開催しました。今回は新しい作品が数枚増えました。買い物に来られる人で賑わう中、多くの方が作品

の前で足を止めて下さり、絵と、その下の説明文を見て頂きました。特に土日は、子供連れのご家族が多く、親御さんだけでなく、子供達も同年代の作品から感じることもあり、気に入った作品を指差したりして関心を寄せていました。移植を受けた子ども達が元気になって画面一杯に明るい色使いで表わした絵を見て、幼い子供たちも楽しんでくれていました。(写真上)



私の移植体験

(寄稿)「私の移植体験記」(その2)

夫婦間生体腎移植を受けて

兵庫腎移植の会 高田 明美さん

いよいよ、2013年6月20日、手術が無事成功しました。術後翌日から立ち上がった、その翌日には歩いたりトリハビリは大変でしたが、あの透析のつらさを思えば頑張って耐えることができました。4日目にはICUから一般病棟へ移り、尿道カテーテルも抜けてトイレへも余裕で歩けるようになりました。その後も順調に回復し、12を超えていたクレアチニンも1前後まで下がり、入院してから約1ヶ月半で退院することができました。

しかし、退院後一ヶ月で体重が7kg増加、クレアチニンも上昇してまたむくみました。即入院して腎生検、結果は拒絶反応でステロイドパルス治療をしました。すぐに、効果がありわずか一週間で10kgも体重が減り、むくみもなくなりました。腎臓がいかに大切なのかと改めて痛感しました。その後は術後6ヶ月の生検で拒絶反応、2回目のパルス治療をしました。現在、移植から1年4ヶ月、ステロイドや免疫抑制剤の種類や量が安定せず、腎生検も5回行っていきます。でも、先日の外来での5回目の検査結果は炎症反応はあるものの経過観察で良いと言われ、ようやく落ち着きはじめたところです。

今思うこと・・・それは移植をして本当によかったということです。体調を崩してからずっとろくに家事も出来ず、透析期間中も毎回必ず迎えに来てくれて、大きな迷惑や負担をかけてしまった夫への罪悪感、手術室に入る直前まで消えなかった健康な夫の体にメスを入れるという葛藤、本当に悩み、涙もたくさん流しました。でも、私自身が笑顔で前向きに過ごしていくことが一番の恩返しになるんだ、と今は思えるようになりました。夫への感謝の気持ちは言葉では言い尽くせません。他にも友人や病院の関係者の方など、私に関わってくくださった全ての人へ感謝の気持ちを忘れずに、夫から貰った大切な移植腎を少しでも長く生着できるよう自分ができることを全て何でも惜しまず努力しようと思っています。

そして、私の体験談が少しでもお役に立てるのであれば、多くの方にお伝えしていきたいと考えています。移植経験者の方はもちろん、これから移植を考えておられる方、他のいろんな方と是非交流をたくさん持ちたいと思います。お医者様には質問できないような身近な相談やアドバイスなど気軽に情報を交換共有して、みなさんと一緒に前に進んでいけたら嬉しく思います。

(おわり)

ご寄附を頂戴しました。誠に有難うございました。臓器移植の普及・啓発推進のために大切に使用させていただきます。

○兵庫腎疾患対策協会様、 ○アステラス製薬(株式会社)様、 ○平田一弘様

○兵庫県社会福祉協議会様、 ○神戸市社会福祉協議会様、 ○イレブン・ミュージック様、

協議会の活動を進めるために会費の納入にご協力を！

当協議会の活動へのご支援を有難うございます。会費の納入をお願いします。会員の種別は以下の通りです。

正会員：2,000円、賛助個人会員：1,000円、賛助団体会員：10,000円（一口）

郵便振替用紙に、必要記載事項(氏名、住所、電話番号、会員の種別)をご記入して下さい。

口座名：兵庫県臓器移植推進協議会 口座番号： 金融機関名：ゆうちょ銀行協議会

口座番号：00950-9-243407

MOTHER
Movement
Organ
Transplant
Hyogo
Emergency
Rescue

【お問い合わせ先】

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目1-21 福建会館ビル6階

NPO法人兵庫県腎友会内 兵庫県臓器移植推進協議会

TEL：078-371-4382 FAX：078-371-8840

URL：<http://motherho.server-shared.com>

